

短期大学部生活創造学科学生を対象とした 入学前教育に関する意識調査

中 村 浩
小 林 令 明
溝 口 雅 明
武 田 亘 明
内 山 智
平 賀 明 子
藤 原 里 佐

目 次

1. 調査目的
2. 調査方法
3. 調査結果および考察
4. まとめ

1. 調査目的

近年では受験生数の減少に伴い、各大学において入学生確保のための競争が激化してきている。各短期大学はAO入試、指定校推薦入試、自己推薦入試、同窓会推薦入試、一般入試など、さまざまな方式による入学試験を実施して学生の確保および学生の学力レベルの維持・向上に努めている。本学短期大学部生活創造学科においても指定校推薦入試、自己推薦入試および一般入試の三種類の入学試験方式によって学生の確保に努めているが、最近では12月に実施される指定校推薦入試と自己推薦入試によって多くの新入学生が決定する状況にある。例えば本学科の学生定員は80名であるが、ほぼこれと同数の入学生がこれらの入試によって決定するという状況が続いている。このことは受験生にとってみると早期に自分の進路が決定するために受験というストレスから早期に解放されることにはな

るが、逆に翌年4月の入学まで、長期間自学自習によって勉学意欲の維持に努めなければならないことにもなる。高校における学習の多くは大学受験を一つの目的として行われていることが現実である以上、早期(12月)に進路が決定することによって学習のための一つの目標を失い、学習の継続ができなまま4月を迎えるというケースも見受けられ、学習意欲が低下した状態で入学後の最初の数ヶ月を過ごしてしまうということにもなりかねないという危惧が生まれることとなる。例えば本学科入学生についてみると、指定校推薦入試および自己推薦入試に合格した学生の中には4月までのおよそ4ヶ月間は勉学への動機づけが低下し、アルバイトや自動車免許の取得などに時間を費やすという傾向も認められる。その結果、大学入学後、新たに勉学への動機づけを高め、大学の授業に合った勉学の習慣が形成されるまでに時間がかかる学生がいることも事実である。またそのような学生の中にはなかなか短大での授業内容、あるいは短大での教育システムについていくことができず、不適応感を持つ者が現れる危険性も秘めているのである。

少なくとも勉学の習慣を維持すること、そしてその勉学の内容に大学的要素(基礎的

識をもとに自由に考え、自分なりの考えを形成する)を盛り込むことによって、入学後の大学での授業への適応が敏速に行われ、大学における教育効果を促進するものと思われる。

以上のような現状を踏まえて、入学決定後の生徒の生活および高校側の進路決定者に対する指導の実態を調査し、入学前教育が新入学生の短大生活への適応を促進する可能性があるか否か、またその必要性がどの程度緊急性ならびに重要性を持つものであるかについて検討する。

2. 調査方法

まず、2005年度における1年生、2年生を対象に、前期終了直前の7月に、入学決定後の生活および短大生活を送る上で事前に必要な準備などについて尋ねるアンケート調査を実施した。次に、2006年度入試の指定校推薦入試および自己推薦入試に合格した81名の学生を対象として合格決定直後にアンケート調査用紙を郵送し、入学までの計画等について尋ね、入学後の7月に再度アンケート調査を実施して、前年12月段階での計画と実際に行った入学準備行動との一致度について調べた。

調査対象者および調査時期については下記の通りである。

- 1) 2005年度1年生(回答者数112名中112名全員)：2005年7月11日調査実施
- 2) 2005年度2年生(回答者数102名中92名) 2005年7月専門ゼミごとに調査実施
- 3) 2006年度推薦入試合格者(回答者81名中71名)：入学通知書送付後およそ1週間後に郵送で依頼。締め切りをおよそ3週間後の1月中旬とする。
- 4) 2006年度1年生(回答者数100名中92名)：2006年7月21日調査実施。

アンケート項目については、調査対象ならびに調査時期によって若干の違いはあるが、

基本的に大きな違いはない。質問内容は文末に資料として示す通りである。

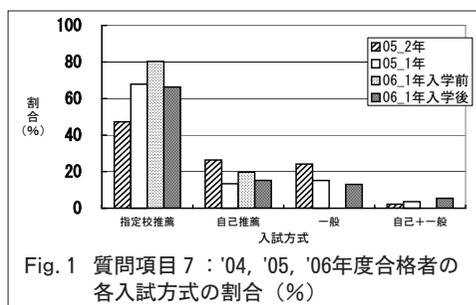
3. 調査結果および考察

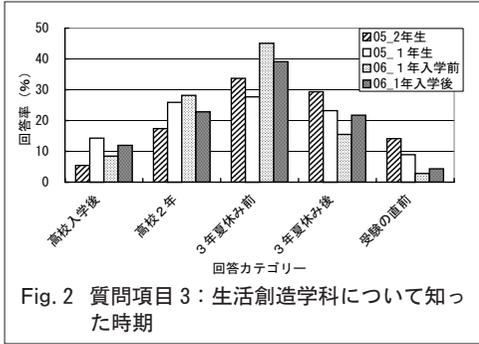
質問項目を入学前教育に関連する三つのカテゴリー、すなわち(1)推薦入試のための準備状況、(2)合格決定後の行動および(3)入学前準備に分けて、それらに関連する主要な項目を選び、4回の調査結果を一つにまとめて以下に報告する。

(1) 推薦入試のための準備状況

質問項目7(利用入試方式)に対する回答の割合を図示したものがFig.1である。この図からも、本学科の合格者の多くが、12月の段階で合格が決定する指定校推薦入試および自己推薦入試を利用していることがわかる。これは、指定校推薦入試を中心とした入試を継続することによって入学者の確保および学生レベルの維持に努めていこうとする本学科の方針によるところが大きい。しかしその結果として、多くの合格者において合格決定から入学までの期間が長くなってしまい、その間の時間の使い方が入学後の大学生活への適応ならびに学習環境への適応にとって重要な要素になると考えられるのである。

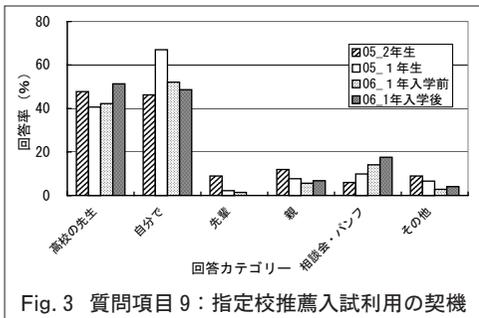
質問項目3(生活創造学科について知った時期)に対する回答の割合を図示したものがFig.2である。多くの合格者が高校3年生になってから本学科について知ったと回答して





いるが、高校3年生になって自分の進路を具体的に検討し始めている訳であるから、一般の受験生の中では具体的な検討時期が遅いように思われる。

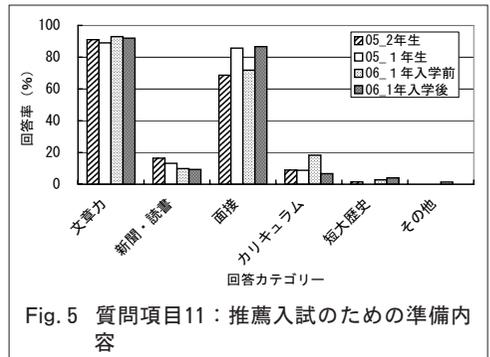
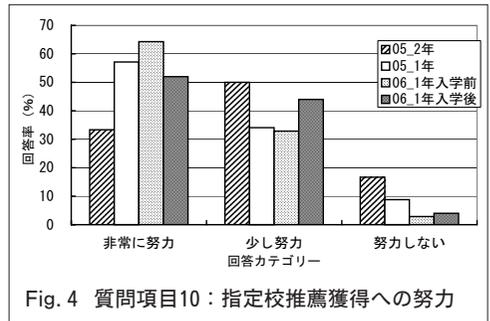
質問項目9（指定校推薦・自己推薦入試利用の契機）に対する回答の割合を図示したものが Fig. 3 である。推薦入試を利用するきっかけとしては高校の先生からの情報と自分で見つけた情報によるものがほぼ回答を2分している。ここで重要な点は高校教員からの情報が契機になっている割合が半数近いことであり、安定した学生確保のためには多くの高校教員に本学科に対する理解を深めてもらう必要があることを示唆するものである。また、相談会やパンフレットから情報を得たという割合が若干ではあるが上昇傾向にある。ここ数年、学科独自のサブパンフレットを作成し、配布するようになったが、これが多少浸透してきたと考えることができるかも知れない。今後はこれと同時にインターネット上のホームページなど、さまざまなメディアを通して



学科の情報を高校生・高校教員・保護者に伝える必要があると言えよう。

質問項目10（指定校推薦獲得のための努力の程度）に対する回答の割合を図示したものが Fig. 4 である。本学科の入試が指定校推薦に偏ってきて一般入試による定員が減少していること、高校内で推薦されるためには評定平均が3.8以上でなければならないことなどから、高校内である程度努力した学生が入学していることが理解できる。また非常に努力したと答えた割合を調べてみると2年生が低く、1年生の方が高いことがわかる。これは入学して時間が経過することによって、その努力に対する記憶が薄れてしまうことによるものと考えられる。2006年度1年生の合格直後の回答と入学後の回答との差についても共通の理由によるものと考えられる。

Fig. 5 は質問項目11（推薦入試のための準備内容）に対する回答の割合を図示したものである。小論文のための文章力の向上と面接試験のための準備が多いことが理解できる。



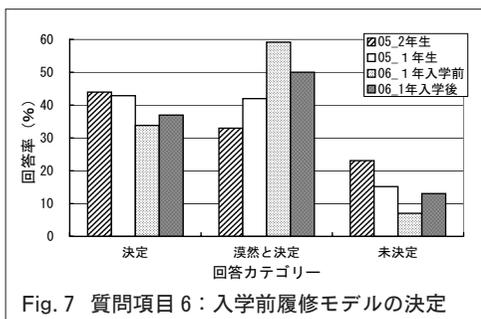
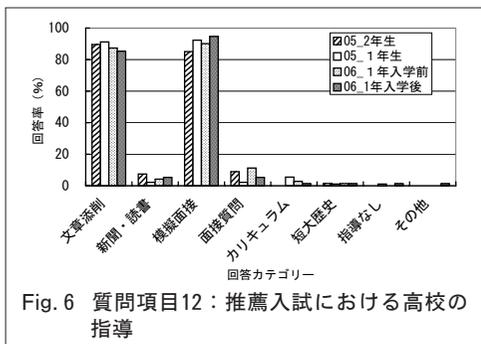


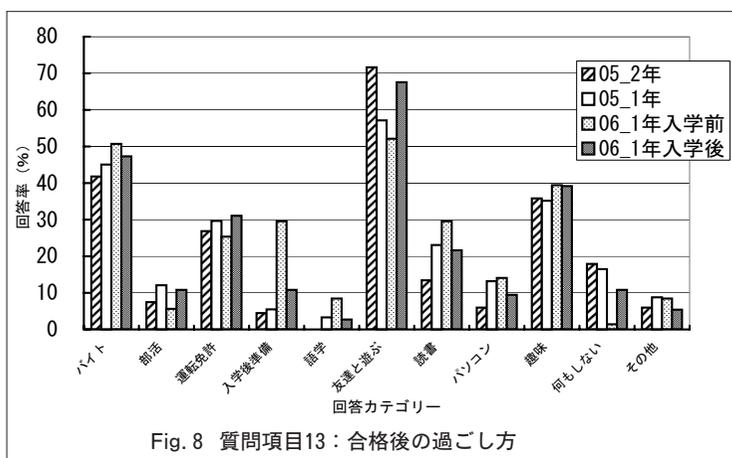
Fig. 6 は項目12（推薦入試における高校の指導）に対する回答の割合を図示したものである。Fig. 5 とほぼ同じ結果で、高校教員の指導も受験科目に則して行われていることがわかる。

Fig. 7 は質問項目6（入学後の履修モデルは決まっていたか）に対する回答の割合を図示したものである。「漠然と決めていた」を含めると、ほとんどの学生が履修モデルについて入学前に考えていたことが理解できる。これはある程度生活創造学科の教育内容について理解した上で入学していることを示すものといえよう。ただし、入学前に考えていた履修モデルと入学後の7月初旬に実施する希望調査において選択するものが異なるというケースも少なくはない。

(2) 合格決定後の行動

Fig. 8 は質問項目13（合格が決定した後、入学までの過ごし方）に対する回答の割合を図示したものである。この結果から、合格決定後は入学後の準備をしているというよりも、「友達と遊ぶ」やアルバイト・運転免許取得・趣味などに多くの時間を費やしていることがわかる。2006年度1年生の合格通知直後の調査結果で「入学後準備」と回答しているものが30%程度いるが、入学後の7月の調査では3分の1に減少していることがわかる。合格決定直後は何らかの準備をしなければならないとは思っているが、実際はあまり実行されていないことがわかる。これは、合格決定直後の勉強意欲がある程度維持されている時に具体的な課題を提示するなど、勉強習慣や勉強意欲を入学時まで維持できるような方策を考える必要があることを示唆する結果といえよう。

Fig. 9 は質問項目14（入学後の短大生活に関する計画）に対する回答の割合を図示したものである。本学科の1年次の大きな行事として履修モデル分けがある。大学におけるゼミ分けとも若干異なり、履修モデルが決定すると、それによってその後履修する科目が決まってくることになるので、学生にとっては重要なものである。その意味では、既に履修モデルが決まっている学生がこの回答を選択



しないことを前提とするならば、半数程度がこの回答を選択している点は妥当な割合といえよう。それと同時にクラブ・サークルや友達作りなどの回答を選択しているものも多く、学生生活を送る上でこれらの要素も重要なものであることが理解できる。

Fig.10は質問項目16（合格決定後の高校の指導）に対する回答の割合を図示したものである。Fig. 8に見られる「合格決定後の大学生活への準備が十分ではない」という結果は、高校からの指導があまりないという点をその理由として指摘できよう。ただし、本学科における高校教員を対象とした別の調査結果⁽¹⁾では、高校側では合格決定後の指導に不備はないという見解を持っていることがわかる。これは教員と生徒の間に意識のずれが存在することを示唆するものである。この点に関連すると思われるものが、Fig.11に示した項目17（合格決定後高校の指導体制）に対する回答の割合である。図からわかるように、三つの

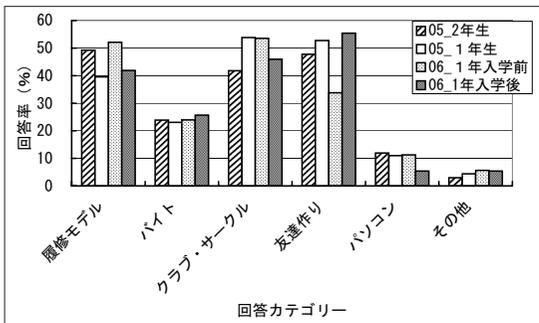


Fig. 9 質問項目14：入学後の短大生活計画

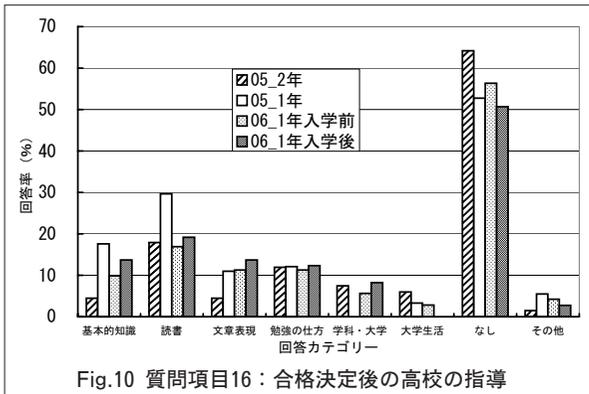


Fig.10 質問項目16：合格決定後の高校の指導

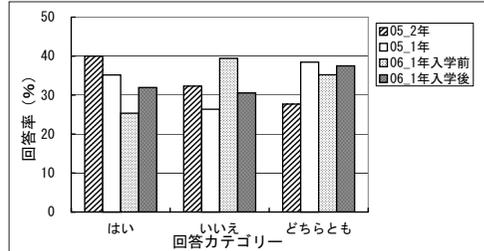


Fig.11 質問項目17：合格決定後の指導はなかった？

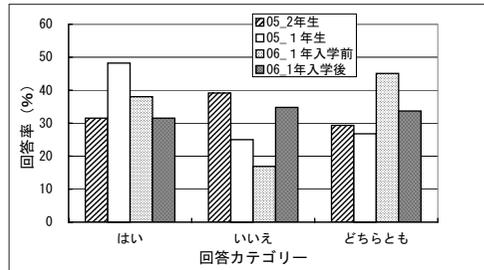


Fig.12 質問項目18：高校からの入学前指導の必要性

選択肢に対する回答割合はほぼ同じであり、必ずしも Fig.10の結果との間に整合性があるとは言えない。学生のとらえ方によって選択する回答が変わったために、Fig.10の結果と一致したものにはならなかったと考えることもできる。

Fig.12は質問項目18（高校からの入学前指導の必要性）に対する回答の割合を図示したものである。回答傾向は三つの選択肢に3分し、特定の傾向を認めることはできなかった。この結果は学生が高校からの指導について具体的にイメージしにくかったことによるものと考えられる。それに対して、短大からの入学前指導の必要性について尋ねた項目18に対する回答は Fig.13に示す通りであるが、図から明らかなように、短大からの入学前指導を期待する回答が多いことが理解できる。2005年度2年生の回答が若干他の群と異なっているが、2年生になると短大生活にも慣れて、その必要性が低下したためと考えられる。それ

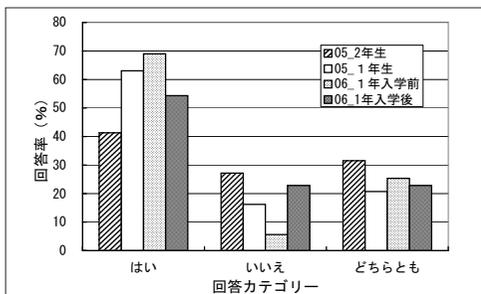


Fig.13 質問項目19：短大からの入学前指導の必要性

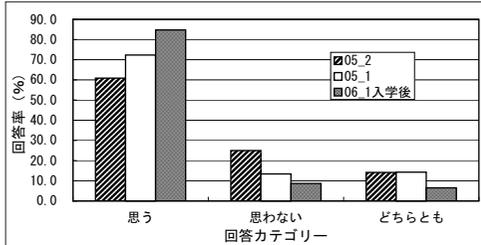


Fig.14 質問項目29：文章力をつけるなどの準備をしておけばよかったと思う？

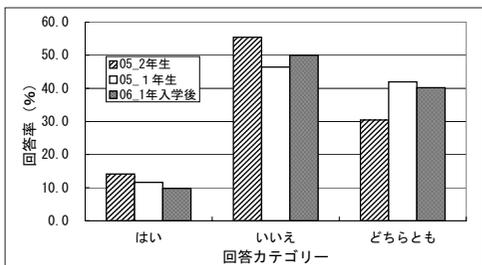


Fig.15 質問項目20：入学前準備は十分だった？

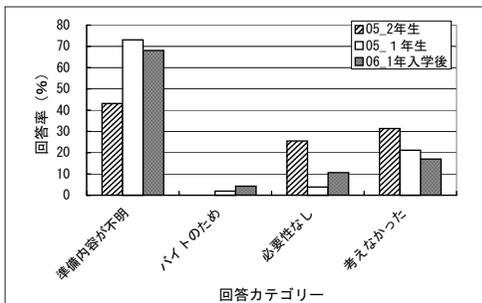


Fig.16 質問項目21：準備が十分ではなかった理由

とは逆に1年生の肯定的回答の割合が高いという結果は、前期が終了する直前の7月頃ではまだ十分に短大生活に慣れていないことを示すものと考えられることもできよう。

(3) 入学前準備について

Fig.14は質問項目29(文章力をつけるなどの準備をしておけばよかったと思うか)に対する回答の割合を図示したものである。これは文章表現能力だけを問題にしているようであるが、短大の授業についていく上でさまざまな準備が出来ていなかったと感じていることを示すものであり、Fig.15に示された項目20(入学前準備は十分だったか)に対する回答の半数前後が不十分であったという結果に一致するものである。問題はなぜ入学前準備が十分にできなかったのかという点であるが、この理由を明確に示しているものがFig.16に示された項目21(十分に準備できなかった理由)に対する回答である。

Fig.16から明らかなように、十分に入学後

の準備ができなかった理由として「どんな準備をしたらよいかかわからなかった」という回答が最も多く、1年生の約70%がこれを選択している。この結果は重要なものである。入学に備えて何か準備したいという気持ちはありながらも、何をどのようにしたらよいかかわからず、そのために準備不足になってしまったと考えることができ、短大側からしっかりと準備のための方針および具体策を提示する必要があることを示すものである。2年生では「準備内容が不明」を選択した割合が減少して、「必要なし」・「考えなかった」を選択している学生が多くなっているが、これも1年半の間大学生活を送ってきたことによる自信が現れているものと考えられることができる。

Fig.17は項目22(入学前に準備が必要な基礎的能力)に対する回答の割合を図示したものである。どの学年もほぼ同じものに対して準備の必要性を感じているようである。特徴的な点は2006年度1年生の入学後の調査結果

である。合格直後は50%弱の学生が文章表現能力の重要性を感じているに過ぎないが、入学してレポートが大変であったのか、70%を超える学生が文章表現能力の必要性を指摘している点である。

Fig.18, 19, 20は2006年度1年生の合格通知直後に実施した調査においてのみ用いられた質問項目に対する回答の割合を示したものである。

Fig.18は短大の授業についていけると思うかどうかを尋ねたもので、肯定的回答がほぼ半数という結果である。しかし「自信がある」と回答している学生は6%程度で、ほとんどの学生が、その強さに違いはあっても、何らかの不安を感じていたものと考えられる。

Fig.19は「入学前準備は大丈夫かどうか」を尋ねたもので、不安は多少あるものの何とかやっつけられるという意識が強いことがわかる。しかし、Fig.15に示されるように、実際に入学して勉強を始めてみると具体的な問題が明確になり、準備が不十分であったことに気がつくことになる。その意味でも、入学後遭遇する問題について理解を深めるための事前指導をすることで、このような認識のギャップが少なくなるものと思われる。

Fig.20は、もし入学前指導を実施したら参加する意志があるかどうかを尋ねたものであるが、「ぜひ参加したい」と回答したものが半数以上で、「内容によっては参加したい」という回答も含めるとおよそ推薦入試で合格した学生の90%が入学前教育を望んでいると同時に、実際に参加する意志があることがわかった。入学前教育を何らかの形で実施することによって、学生たちは早い時期に将来入学する短大とのつながりを経験することができ、短大に対する帰属意識も形成されることが期待される。さらにそれを通して入学前から入学後への勉強意欲の継続が可能となり、それが短大生活への早期の適応に導くものと

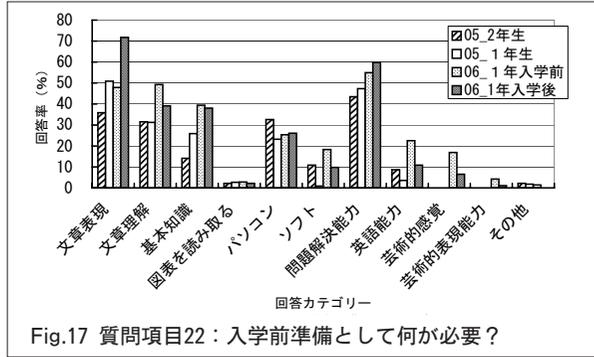


Fig.17 質問項目22：入学前準備として何が必要？

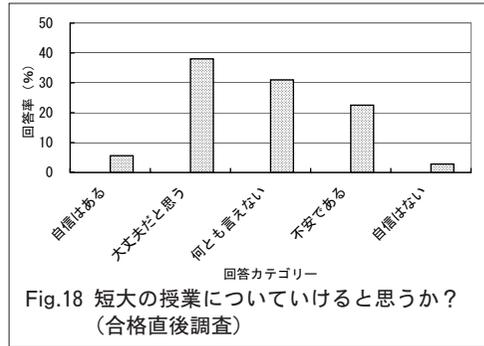


Fig.18 短大の授業についていけると思うか？ (合格直後調査)

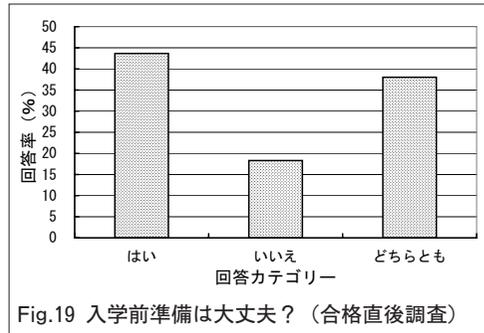


Fig.19 入学前準備は大丈夫？ (合格直後調査)

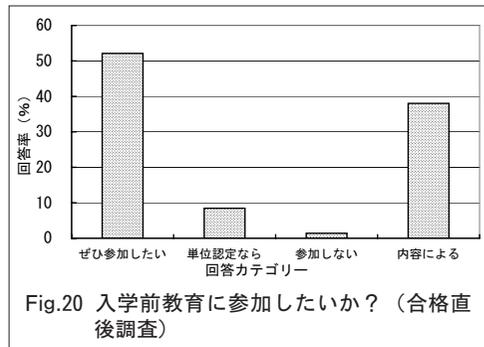


Fig.20 入学前教育に参加したいか？ (合格直後調査)

期待されるところである。

4. まとめ

昨今、短期大学の入試においてはAO入試や指定校推薦入試など、早期に合格が決定する入試方式が採られるようになってきている。この目的の一つは早期に学生を確保したいというものであるが、その反面、合格決定後、入学までの期間が長く、その間勉学意欲を維持させるための一つの方策として入学前教育の必要性が指摘されるようになってきた。このような状況を踏まえて、推薦入試で早期に合格が決まった本学科学生を対象として、合格決定から入学までの生活や入学後の準備状況、入学後の学生生活への適応状況などについてアンケートによる調査を実施した。

その結果、合格決定から入学までの間、あまり入学後の準備に充てることはしておらず、学習意欲が十分に維持された状態で入学を迎えているとは言えない状況が明らかとなった。そしてその一つの理由として、どのような準備をしたらよいかかわからなかったという点が指摘されたが、高校と大学の学習システムが大きく異なる現在、高校生にとって大学生生活をイメージすることが難しく、そのために何を準備したらよいか不明なまま時間が経過していくということになるものとも思われる。その意味では、短期大学における教育効果の向上を目的として、入学後の学生生活(短期大学部の教育理念、短大におけるカリキュラム、生活創造学科における専門教育および履修モデルのねらいと内容、大学における単位制度、時間割の決め方、試験やレポート等による成績評価の仕組みなど)について学生一人ひとりが早期に理解すると同時に、短大授業の理解度を増すための基礎学力向上を目指した入学前教育を実施する必要性が高まっているものと思われる。

[注]

- (1) 本報告は、北星学園大学2005年度新規事業「短期大学生の入学前教育に関する予備調査」として実施した調査の一部について報告したものである。高校教員を対象とした調査結果については後日、生活創造学科・溝口雅明を中心としたグループによって報告される予定である。

【資料】

短期大学学生生活調査

以下の質問は、高校3年の12月以降、あなたの進路が確定してから現在までの生活および意識についてうかがうものです。資料は統計的に処理され、個人が特定されることはありませんので、できるだけこれまでのことを思い出して、間違いのないよう、該当するすべての項目に回答して下さい。

1. 生活創造学科を選んだ理由について、次の中から当てはまるものを選んで、該当する番号を○で囲んで下さい。(2つまで)
 - (1) 自分の学びたい履修モデルがあったから
 - (2) いろんな履修モデルがあって幅広く学べると思ったから
 - (3) 入学してから自分の進路を決められるから
 - (4) 北星学園大学への編入の道があったから
 - (5) 就職の実績が良いから
 - (6) 親や友達に勧められて
 - (7) 先生や先輩に勧められて
 - (8) その他()
2. 生活創造学科はあなたの第1志望でしたか?
 - (1) はい (2) いいえ
3. いろいろ生活創造学科について知りましたか?
 - (1) 高校に入ったところから
 - (2) 高校2年生のころから
 - (3) 3年生の夏休み前
 - (4) 3年生の夏休みの後
 - (5) 受験の直前まで知らなかった
4. 生活創造学科のことは何によって知りましたか? (2つまで)
 - (1) 入試パンフレット
 - (2) ホテル会場や高校で行われた入試相談会・入試説明会
 - (3) キャンパス説明会
 - (4) 親や友達に教えられた
 - (5) 先生や先輩に教えられた
 - (6) テレビや電車の中の北星学園の広告を見て
 - (7) その他()
5. 生活創造学科は、自分が入学前に期待していたイメージと同じでしたか?
 - (1) 期待以上だった
 - (2) 期待していたとおりだった
 - (3) どちらとも言えない

短期大学部生活創造学科学生を対象とした入学前教育に関する意識調査

- (4) ちょっと違っていた
 (5) 期待はずれだった
 6. 入学前に、どの履修モデルを希望するか決めていましたか？
 (1) 決めていた (2) 漠然と決めていた
 (3) 決めていなかった
 7. あなたの入試形態は下記項目のうちどれでしたか？
 (1) 指定校推薦入試 (2) 自己推薦入試
 (3) 一般入試
 (4) 自己推薦入試+一般入試

上の質問7で「(1)指定校推薦入試」あるいは「(2)自己推薦入試」を選んだ方は、以下の質問すべてに回答して下さい。「(3)一般入試」または「(4)自己推薦入試+一般入試」を選んだ方は質問18に飛んで、それ以降の質問に回答して下さい。

8. 短期大学生活創造学科への入学を希望した時、最初から指定校推薦・自己推薦入試で受験しようと思いましたが？
 (1) はい (2) いいえ
 (3) この制度についてよく知らなかった
 9. 指定校推薦・自己推薦入試制度を利用しようとしたきっかけは何でしたか？
 (2つまで)
 (1) 高校の先生に勧められて
 (2) 自分で調べて希望した
 (3) 先輩に教えられて
 (4) 親に教えられて
 (5) 入試相談会やキャンパス説明会で聞いて
 (6) その他 ()
 10. 指定校推薦入試制度で推薦されるため、あるいは自己推薦入試で合格するために、あなたは、高校時代どの程度勉強に努力したと思いますか？
 (1) 非常に努力した (2) 少し努力した
 (3) 特に努力したとは思わない
 11. 指定校推薦入試および自己推薦入試のためにあなたはどのような準備をしましたか？
 (2つまで)
 (1) 小論文試験に備えて文章を書く練習をした
 (2) 小論文試験に備えて本や新聞を多く読んだ
 (3) 面接で尋ねられそうなことを想定して準備した
 (4) 生活創造学科のカリキュラムについて調べた
 (5) 北星学園や短期大学部の歴史について調べた
 (6) その他 ()
 12. 指定校推薦入試および自己推薦入試のために、高校の先生は主にどのような指導をしてくださいましたか？
 (2つまで)
 (1) 小論文試験に備えて練習した文章を添削してくれた
 (2) 小論文試験に備えて本や新聞を多く読むように指導された
 (3) 面接を想定して模擬面接をしてくれた
 (4) 面接で尋ねられそうな質問を教えてくださいました
 (5) 生活創造学科のカリキュラムについて調べておくよう指導された
 (6) 北星学園や短期大学部の歴史について調べておくよう指導された
 (7) 特に何もしてくれなかった
 (8) その他 ()
 13. 指定校推薦・自己推薦入試で合格が決まってから入学までどのように過ごしましたか？ 当てはまるものを選んで下さい。
 (3つまで)
 (1) アルバイト
 (2) 部活動
 (3) 自動車運転免許の取得
 (4) 入学後の勉強の準備
 (5) 語学を学んだ
 (6) 友達と遊んだ
 (7) 好きな本をゆっくり読んだ
 (8) コンピュータに慣れるように練習した
 (9) 音楽等の趣味に時間を費やした
 (10) 特に何もせずに時間が過ぎてしまった
 (11) その他 ()
 14. 指定校推薦入試・自己推薦入試で合格してから、入学した後の短期大学生活についてどのような計画を立てましたか？
 (2つまで)
 (1) どの履修モデルを選ぶか考えた
 (2) アルバイトについて考えた
 (3) クラブ・サークル活動について考えた
 (4) 友達作りのことを考えた
 (5) コンピュータを使いこなせるようにしようと思った
 (6) その他 ()
 15. 指定校推薦・自己推薦入試で合格が決定してから入学までは長かったと思いますか？
 (1) 長かったと思う (2) 短かったと思う
 (3) どちらとも言えない
 16. 指定校推薦入試・自己推薦入試で合格が決定してから、高校の先生は短大入学後の勉強についてどのような指導をしてくださいましたか？ (2つまで)
 (1) 社会や文化など基本的知識を学ぶように指導された
 (2) 本をたくさん読んでおくように指導された
 (3) 文章を書く練習をするように指導された
 (4) 高校と大学の勉強の仕方の違いについて教えられた
 (5) 生活創造学科や北星学園のことについて調べておくように指導された
 (6) 大学生活の意義について教えられた
 (7) 特に指導はなかった
 (8) その他 ()
 17. 高校の指導体制は、進路が決定した生徒に対してはあまり目が向いていなかったと思いますか？
 (1) はい (2) いいえ
 (3) どちらとも言えない
 18. 入学前に高校から短大入学後の勉強についてもう少し指導があった方がよいと思いますか？
 (1) はい (2) いいえ
 (3) どちらとも言えない

19. 入学前に短大から短大入学後の勉強についてもう少し指導があった方がよいと思いますか？
(1) はい (2) いいえ
(3) どちらとも言えない
20. コンピュータや語学の勉強・文章表現力の向上など、入学前の準備は十分でしたか？
(1) はい (2) いいえ
(3) どちらとも言えない
21. 上の質問20で、「(2) いいえ」を選んだ方に伺います。十分に準備できなかった理由は何だと思いますか？
(1つだけ)
(1) どんな準備をしたらよいか、よく分からなかった。
(2) バイトなどが忙しくて準備をする暇が無かった
(3) 準備の必要性を感じたことが無かった
(4) 進路が決まったことで安心してしまい、そこまで考えなかった
(5) その他 ()
22. 短大での授業について行くためには、入学前の準備として何が最も必要だと思いますか？ (2つまで)
(1) 文章表現能力
(2) 文章理解能力
(3) 社会や文化に関する基本的知識
(4) グラフや表からデータを読み取る力
(5) コンピュータを操作する能力
(6) コンピュータ・ソフトを使いこなす力
(7) 考えて、自ら問題を解決する力
(8) 英語の能力
(9) その他 ()
23. あなたは現在、短大の授業についていけていると思いますか？
(1) ついていっている
(2) 難しく、ついていけない講義もある
(3) 興味がない講義についてはついていけないものもある
(4) 全体的に、あまりついていけないと思う
(5) 全くついていけないと思う
(6) 簡単すぎて退屈である
24. あなたの短大生活は充実していると思いますか？
(1) 充実している (2) 充実していない (2) どちらとも言えない
25. 上の質問24で「充実している」と回答した方にお尋ねします。その理由は何ですか？
(2つまで)
(1) 自分が期待していた講義を聞くことができるから
(2) クラブ・サークル活動が充実しているから
(3) よい友達ができたから
(4) アルバイトが面白いから
(5) その他 ()
26. 上の質問24で「充実していない」と回答した方にお尋ねします。その理由は何ですか？ (2つまで)
(1) 短大での講義・授業つまらないから
(2) クラブ・サークル活動に満足できないから
(3) よい友達ができないから
(4) 将来が不安だから
- (5) その他 ()
27. 高校時代に比べて、短大での勉強時間は長くなったと思いますか？
(1) 長くなった (2) 短くなった
(3) あまり変わらない
28. 短大でやりたいと思っていたことが、今は十分にできていると思いますか？
(1) できていると思う (2) できていない
(3) どちらとも言えない
29. 短大の授業でレポートや文章を書く時、もう少し高校時代に練習しておけばよかったと思うことはありますか？
(1) 思うことはある (2) 思うことはない
(3) どちらとも言えない
30. 生活創造学科について感じていること、あるいは生活創造学科への希望など、自由に記述して下さい。